

事務事業名		公共土木施設災害復旧事業(H31災)		所属部	建設部	所属課	建設工務課
総合計画 画体系	政策名	(Ⅱ)安全・安心で快適なまち<<定住環境>>		所属G	道路改良G	課長名	渡部 克彦
	施策名	(12)道路の整備		担当者名	板持大悟	電話番号	0854-40-1063 (内線) 2472
	目的 対 象	市民	意図 市内及び市外へ安全で便利に移動できる。	予算科目	会計 款 大事業 大 0 1 5 5 0 3 事業名 項 目 中事業 中 1 0 1 0 0 1 事業名	現年発生公共土木施設災害 復旧事業	
	基本事業名	(035)道路の維持管理				現年発生公共土木施設災害 復旧事業	
目的 対 象	道路利用者	意図 安全に移動できる。					

1 現状把握[DO]

(1)事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度 ~)
<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (R元 年度 ~ R元 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
公共災害復旧事業は、市管理の河川、道路が特定の雨などにより被災を受けた場合、復旧するものである。 この事業は国の補助を受けて行う事業であり、災害復旧の基準としては、日雨量80mm以上、時間雨量20mm以上で、河川の場合は雨量の他に断面積の2分の1以上の流量が必要。 また、補助対象事業費は60万円以上である。

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	R元年度実績(R元年度に行った主な活動)		R2年度計画(R2年度に計画する主な活動)			
	工事発注・監督 ・河川災害2箇所 (井手谷川、飯石川) ・道路災害1箇所 (木の廻線)						
	② 活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (計画)	
	ア 発注箇所	箇所			3		
	イ						
	ウ						
	エ						

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (計画)
	災害発生箇所	ア 発生箇所	箇所			3	
		イ					
		ウ					
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (計画)
	道路、河川の機能を復旧することによって、安全に利用することができる。	ア 発注率	%			100.0	
		イ 完了率	%			100.0	
		ウ					

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳(1年度決算)		② コストの推移		単位	H29年度(決算)	H30年度(決算)	R元年度(決算)	R2年度(計画)
災害復旧事業債		事業費	財源内訳	千円			5,865	
委託費	1,540千円		国庫支出金	千円				
工事費	8,793千円		県支出金	千円			4,400	
計	10,333千円		地方債	千円				
			その他	千円			68	
		一般財源	千円					
		事業費計(A)	千円				10,333	
		人件費	正規職員従事人数	人			5	
			延べ業務時間	時間			340	
			人件費計(B)	千円			1,442	
			トータルコスト(A)+(B)	千円			11,775	

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
災害前の維持管理体制の確立と、査定までの事務の効率化を図る必要がある。	日常の道路点検が必要であり、職員によるパトロールを実施した。 測量設計については外部委託を行い事務の軽減を図った。	生活に直結する市道、河川護岸の災害については、早急な復旧が望まれる。

事務事業名	公共土木施設災害復旧事業(H31災)	所属部	建設部	所属課	建設工務課
-------	--------------------	-----	-----	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があると理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合 →	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である * 余地がある場合 →	
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →	
B 有効性	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない	理由 早期復旧のために測量設計の外部委託による事務の効率化を図っている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		
	<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	理由 道路河川の復旧ができず利用者の利便性、安全性の確保ができない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合 →	(具体的な手段や類似事業名)	
	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない	理由 復旧すべき施設が事業により異なるため統廃合は難しい。
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない		
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 原形復旧が原則であり、復旧工法も経済比較により決定している。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 すでに測量設計など委託を行っている。
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 市管理の道路、河川であり住民負担はない。
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	災害発生から復旧工事まで効率的に進捗するよう心掛けている。河川や道路については日常のパトロールで記録を残すことが必要。
	B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																			
<input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持		×	低下		×	×
		コスト																		
	削減	維持	増加																	
成果	向上																			
	維持		×																	
低下		×	×																	
年度内に復旧工事が完了したため廃止とする。 災害復旧事業は異常な天然現象によるものであるため、事業量の把握は困難であるが、現状どおり事務の効率化を図ることは必要。	廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。																			